

# 読解力向上を目指した 国語科授業の実践について

## 学校教育課通信

令和3年 3月 2日 第166号  
編集・発行：県南教育事務所 板橋竜男

### 読解力向上を目指す学習指導

2019年12月、「PISA型調査」において日本の読解力の順位が前回の8位から15位に落ちたと報じられました。「読解力向上」が叫ばれている昨今、福島県教育委員会では「AI時代を生き抜く読解力向上事業」を立ち上げ、今年度、県南域内では「泉崎村立泉崎第一小学校」と「塙町立塙中学校」が研究協力校として、研究公開を行いました。（泉崎一小は国語科、塙中は数学科・社会科・英語科を中心に実践発表を実施）

「リーディングスキル」とは、汎用的な基礎的読解力であり、教科書や新聞、マニュアルや契約書などのドキュメントの意味及び意図を、迅速かつ正確に読み取る力とされ、表のように6分野7項目の視点に分別されています。「AI vs 教科書が読めない子どもたち」（2018年 東洋経済新報社）の著者である国立情報学研究所の新井紀子氏により、教師がこの視点をもとに授業を展開することで個人差のある児童生徒の教科書読解のレディネスをそろえ、教科書を読める子どもたちを育成することができるとされています。

6分野7項目	問われる能力
係り受け解析	主語・述語や修飾語・被修飾語など、文を構成する要素の関係の理解について問う。
照応解決	「それ」「これ」などの指示代名詞が何を示すかの理解について問う。
同義文判定	2つの文が同じ意味を表すかどうかを判断する力について問う。
推論	文の構造を理解した上で、体験や常識、その他の様々な知識を動員して文章の意味を理解する力を問う。
イメージ同定	文章と図形やグラフを比べて内容が一致するかどうかを認識する力を問う。
具体例同定	概念または定義を読み、具体的にどのようなコト・モノがその例になりうるかを具体的に認識できるかを問う。
(辞書)	辞書の定義を用いて新しい語彙とその用法を獲得する力を問う。
(理数的)	理数的な定義を理解し、その用法を獲得する力を問う。

※ 具体例同定は（辞書）（理数的）と2つの項目に分けられます。

～令和2年度「全国学力・学習状況調査」の問題から～

#### 【小学校】大問③ 設問二

イ・ウの文について傍線部が詳しくしている言葉として適切なものを、一つ選択

イ ずいぶん長い時間がすぎました。

ウ すると、一ぴきの大ギツネが、しきりに正太郎のほおやくちびるをなめまわし、ほかの一ぴきは、かれのむねの上にくずくまって、しきりにかれをあたためていたのでした。

#### 【中学校】大問④ 設問三

次の波線部①から④までのうち、動作をしている人（もの）が異なるものを一つ選択

そのころ、といっても大正四、五年のことで、いまから四十数年前のことだが、夕方になると、きまって村の子どもたちは口々に「しろばんば、しろばんば」と①叫びながら、家の前の街道をあっちに②走ったり、(中略)舞っているように③浮遊している白い小さい生きものを④追いかけて遊んだ。

小・中学校ともに上記の表でいうと「係り受け解析」の問題が出題されています。「これぐらいは分かるだろう」ではなく、「ここでつまづくかも」ということを考え、授業を実践していくことが一人一人の読解力向上につながるのではないのでしょうか。

各学校で取り組んでいる素晴らしい実践を記載しましたので参考にいただければ幸いです。

# ～泉崎村立泉崎第一小学校の実践例より～

## 実践①「係り受け解析」 ～2年 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう 「お手紙」～

(中略)  
 「かえるくん、どうして、きみ、ずっと まどの外を見ているの。」  
 (ア) がたずねました。  
 「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」  
 (イ) が言いました。  
 「でも、来やしないよ。」  
 (ウ) が言いました。



T: 「たずねたのは誰かな。」  
 C: 「がまくん！」  
 T: 「でも、来やしないよ。」と言ったのは誰？  
 C: 「それも、がまくん！」

主語を隠した本文を提示し、動作主(主語)を確認することで正しい読みの手助けとする。



## 実践②「同義文判定」 ～1年 せつめいする文しょうをよもう 「じどう車くらべ」～

トラックは、にもつを はこぶしごとを して います。  
 その ために、うんてんせきのほかは、ひろい にだいに なって います。

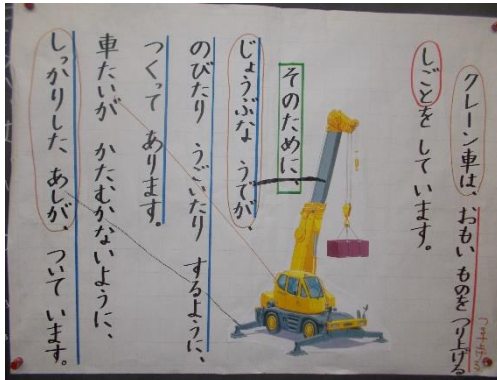
左にある2つの文を右のように1つにすると、どんな文になるかな？「～わけは」に続くように書きかえてみよう。

トラックが、うんてんせきのほかが、ひろい にだいに なっている わけは、( )。



複文を単文に書き直す力をつけることで、2つの文が同義を表すかを判断する力を育成する。

## 実践③「イメージ同定」 ～1年 せつめいする文しょうをよもう 「じどう車くらべ」～



T: 「うで」ってなんだろう？  
 (クレーン車の部分を指さしながら)  
 C: のびたり うごいたりするよ。  
 C: じょうぶな うで だよ。  
 C: ここかな？  
 C: こっちじゃ ないかな？  
 (動画で動きを確認)  
 C: 「うで」は、ここだね！



ICTを活用してクレーン車の「うで」とはどこかを確認し、文章と絵をつなぐ活動とする。

## 実践④「推論」 ～2年 読んで、感じたことを伝え合おう 「スーホの白い馬」～



T: スーホと白馬の心が一番結びついているのはどの場面かな。  
 根拠を文章から探してサイドラインを引き、理由を書こう。  
 C: 「白馬はひどいきずを受けながら」とあり、それでもスーホとの「ずっといっしょだよ。」という約束を守るために帰ってきたから7場面だと思う。  
 C: 私も同じです。二人の心がつながっていなかったらスーホのところに戻ってこないと思うからです。  
 C: 最初にやった4場面と比べてどうかな？



複数の場面を比べる活動を取り入れ、その場面を選んだ根拠となる文章を明確にし、それらをもとに自分の考えをもたせることで読みを深めたり広げたりする手立てとする。



## すぐできる！リーディングスキルを高めるための授業実践

皆さんが実施されている授業にもリーディングスキルを高める手立てはたくさんあります。それらを取り入れている授業をご紹介します。新しいことに取り組むのではなく、今実践していることを改めてリーディングスキルを高める手立てとして振り返ったり、取り入れたりするきっかけとしていただければと思います。

### 親和性の低い(なじみのない)言葉の理解させるための問いかけ(白河市立白河第一小学校の授業より)

【動作化や自分の生活体験と結びつけて違う言葉で言い換えたり、例文を作ったりすることで語彙を身に付けるための問いかけ】

例1 T:「はねおきる」ってどういうこと？

C: ぴょんって。 C: どうしたんだろうって驚いた! C: あわてて、目をさましたんだと思う。

C: 服もそのまま、スリッパもそのまま。すぐに…。(小2「スーホの白い馬」より)



例2 T: 7日ぐらいってどれくらい? C: 日曜日から土曜日まで C: 1週間のことだよ。

T: 「ぐらい」ってどういうときに使うの? 「7日です」ではだめ?

C: 7日のうちやらないこともあるってこと。 C: やったりやらなかったり…。でもやらないよりもやるほうが多い。係活動とか……? (小1「動物の赤ちゃん」より)



### 不明確な言葉を明示化(中島村立滑津小学校の授業より)

【何気なく教師が使っている不明確な言葉を明示化させる問いかけや指示】

T: 前の時間の話し合いは、たくさんの人が意見を言えたり、質問したりできて良かったね。

C: いや、まだまだ反省する所があるから、さらにより良い話し合いをするためにはどうするかを考えたいな。

T: 確認するけど、「より良い話し合い」って、具体的にどういうことだろうね? 教科書にある「司会者の役割」の6つのポイントをもとに自分たちができていないことを確認してみよう。

C: 時間を提示することかな。 C: みんなの意見を聞くことが必要じゃない?

C: 意見をまとめる場面も必要かも。

T: 「より良い話し合い」にするために、①時間を提示する ②意見の内容をはっきりさせる

③みんなの意見を大切にまとめてみる ことが必要なんだね。では、この3つの視点から前の時間の話し合いを振り返ってどの場面でどうしたらよいかを今日は考えていきましょう。

(小4「クラスみんなで決めるには」より)

※「ちゃんと読みなさい」「しっかり書きなさい」など教師は子どもたちに指示しがちですが、「何を」「どのようにするか」を明示化にすることが大切です。



### 音読やサイドラインの活用(棚倉町立棚倉小学校の授業より)

【着目すべき点を明確にした音読、サイドラインを引く際の具体的な指示】

T: 今日のためてにある「たこのかくれかた」がわかるころはどこかな。指さしてくれる?

C: (教科書の該当部分を指さしながら) ここの部分に書いてあるよ。

T: そうだね。じゃあ今日はこの部分を読んでいこうか。音読するとき、「何が」「どのようにか」に気をつけて読んでいこうね。(その段落を拡大して黒板に提示)

※黒板を見ながら、音読する。その際、指差し確認をしながら教師も一緒に音読していく。

T: では、今読んでくれた部分で「何が」が書かれているところには赤線、「どのようにか」には青線を引いてみよう。わからない人は、「前のページ」の「 」の部分に引いてあるサイドラインを参考にするといいね。(小1「うみのかくれんぼ」より)



# 読解力向上を目指した「視写」の実践例

西郷村立西郷第二中学校



全国学力・学習状況調査の国語の正答率を比べると「1面コラムの書き写し」実施校（日本新聞協会調べ2020年2月）の方が全国平均よりも小学校で1.5ポイント、中学校で3.9ポイント高くなったという結果が出ている。  
(2020.5.7 朝日新聞より)

【実践方法】 3年間継続して実施。

- ① 朝自習（毎週火曜日）の時間を使った「視写」の実施。
  - ② 用紙は、手本となるコラムと同じ字数・行数の原稿用紙を使用。
  - ③ 課題は、1ヶ月分を1シートにして配付。（1ヶ月4～5回分）
  - ④ 書き終わらなかったら宿題としてその週のうちに提出。
- ※ コラムと自分の書いた作品は、国語ファイルに綴じる。

- 朝自習の「視写」は必履!
- 身につけよう!
- 読解力
- 言葉の豊かさ
- 文章書力
- 世の中のこと
- 毎週火曜日の朝自習の時間、原稿用紙に必ず書き写す。
- 提出は、毎週火曜日の朝自習の時間、原稿用紙に必ず書き写す。
- 提出は、毎週火曜日の朝自習の時間、原稿用紙に必ず書き写す。
- 提出は、毎週火曜日の朝自習の時間、原稿用紙に必ず書き写す。

26 余録

56 (2)

14 余録

5/26 (2)

19 余録

5/29 (2)

余録 2018年(平成30年)2月

「おせせ 56回!!」

「新聞のコラムを視写して読解力をつけよう」

No.1

「朝新聞」

余録

の	と	了	で	留	江	も	は	っ	か	子	鏡	い	た	か	余
は	い	う	も	は	戸	あ	ふ	な	多	屋	の	る	ら	ら	録
ら	う	本	あ	い	あ	ら	あ	わ	め	の	下	の	は	わ	
る	来	ら	た	か	の	の	銀	子	と	入	げ	だ	は	わ	
ん	の	ば	よ	代	の	き	前	し	よ	学	日	め	か	わ	
だ	目	的	う	の	幸	い	を	も	た	で	あ	る	初	わ	
的	今	だ	子	を	た	ど	は	も	江	の	初	は	初	わ	
の	け	日	江	ら	か	も	さ	と	江	子	の	は	初	わ	
の	た	で	学	時	か	も	さ	と	江	子	の	は	初	わ	
突	然	語	教	育	に	親	の	句	の	家	の	家	の	家	
一	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	

毎日新聞を購読すると毎月もらえる「余録」を1ヶ月分の課題として印刷して生徒に配布している。

実際の生徒の作品。視写への取組が3年目を迎えた今年度は、ほとんどの生徒が朝自習の時間で書き上げることができている。左の手本となるコラムと同じ字数、行数の原稿用紙を使用することで誤字・脱字への意識も高められる。

## 【取組の効果及び課題】

- 実践スタート時には書き終わらなかった生徒もほとんどが書き終わられるようになった。
- 書くスピードが速まったと同時に字もていねいになった生徒が多くなった。
- 書き写す際に誤字・脱字があったが、後半は少なくなっている。
- 作文を書く際、速く書き上げられる生徒が増えた。
- 数字が漢数字で書かれていないため、実際の作文のときも漢数字を使わない生徒がいる。

**要点**

視写をする目的を子どもたちに伝えることが重要!!

① 読解力向上 ② 語彙力向上 ③ 文章を書く力 ④ 世相を読み解く力

目的を伝えることで、学習意義を理解し、主体的に取り組むことにつながります。